

## 新年度を迎えて ～法人内各施設より～

世界中で感染拡大している新型コロナウイルスの影響が身近に迫り、日々の状況が大変気になるところですが、令和2年の新年度を迎え、法人内の各事業所では管理者をはじめ人事異動がありました。(詳細は7面に掲載しています。)

4月号では、各事業所の管理者から令和2年度を迎えての思いや今年度の目標をそれぞれのテーマとなる“一字”に託して書いていただきました。

### 法人事務局 事務局長 飯塚 聡



昨年度の4月には、時代の変化に柔軟に対応することの大切さをここで書きました。

この4月、全国手をつなぐ育成会連合会は、一般社団法人として新たにスタートをしました。

一つの新たなアクションを起こすと、メリットと同時にデメリットが発生すると思います。今までと違う状況になれば、先行きが不透明ということもあって不安も生じるかと思います。

今

一方で取り巻く状況は刻々と変化し続けています。その波に乗らずに見過ごしていると時代に取り残される可能性が大いにあります。

身近なところで見てみると、1980年代はポケットベルが占めていましたが、1990年代中頃には携帯電話が登場し、2010年代となるとスマートフォンが主流となりました。最近では小学校でタブレット端末を児童に配布して授業に活用し、先生は電子黒板と言って液晶モニターを黒板代わりにしています。さらには、新型コロナウイルス感染症により休校となっている学校現場では、インターネットを利用して学校と自宅を繋いで遠隔授業をしているところもあります。歴史を遡っても新たなツールが登場した時には支持する人や異論を唱える人がいましたが、時代の変化は待ったなしで進み日常的なツールになったものがたくさんあります。

大阪市育成会も時代に取り残されないように、先人たちが取り組まれてきた「いい所」は残しながらも、一方で新たなものを取り入れて進んでいかなくては

なりません。その為にも、全国規模の団体の一員という利点から入ってくる情報のカケラを拾い集めて、時代の流れの少し先を予測して対応する必要があると思います。また、会員組織としても事業実施団体としても、少しでも参考になるようなものがあれば、現行のやり方を修正して取り入れていくことも必要かと思っています。

昨年に引き続いて今年の一文字は「今」としています。今というこの瞬間が次の瞬間には過去になっています。次の対応が円滑にできるよう、少し先の未来を見ながら今の事象に対応していきたいと思っています。

### 東成育成園 管理者 林 祥子



《自分らしく生きる》を支える

今年度も東成育成園の管理者を務めさせていただきます 林祥子です。抜けるような青空に、満開の桜。心弾む季節のはずですが・・・これほど、先行きが不透明で不安感のあるスタートは過去に経験がありません。事業所内も落ち着かない雰囲気ではありますが、気を緩めることなく過ごしてまいりたいと思います。

晴

さて、東成育成園は平成23年4月から生活介護と就労継続支援事業B型の多機能型事業所として運営してまいりましたが、令和2年4月より事業を生活介護に一本化し、定員も40名といたしました。改めて、利用者の皆さんの想いや希望・・・求められる支援のあり方を見つめなおし、大切にしてきた【自分らしく生きる】ことの具現化に向け、汗を流したいと思います。重ねて、近年いわれているように社会福祉法人として、地域で果たすべき役割や社会への貢献も、できることから着実に進めることで、法人理念の実現に結びつくのだと、ここ数年の活動の中から実感をこめて感じ入っているところです。

この春、東成育成園では新しい職員を2名迎え入れました。ひとは長く居宅介護事業に携わってきた職員・・・さまざまな関わりから潜在的なニーズを見つけ出し、支援へつなげていくことに力を発揮してくれると期待しています。もうひとは元気な新人職員・・・新鮮な気づきの中から利用者の皆さんにも職員にも刺激を与えてくれると思います。

私たち支援者の役割は、障がいのある人たちの歩み